

「遍路道関連の道標等の石造物」最終追加調査を実施！

一濱田真尚 & 唐岩淳子調査協力員が来市一

27～28日(木～金)の2日間、土佐清水市史調査協力員の濱田真尚氏(南国史談会会長)と唐岩淳子氏(同史談会副会長)が「あしずり遍路道」関連の近世石造物及び中世石仏の補充調査のため、土佐清水市を来訪した。なお、この調査には「あしずり遍路道保存会」会長の弘田之彦氏にも同行いただき、ご協力いただいた。

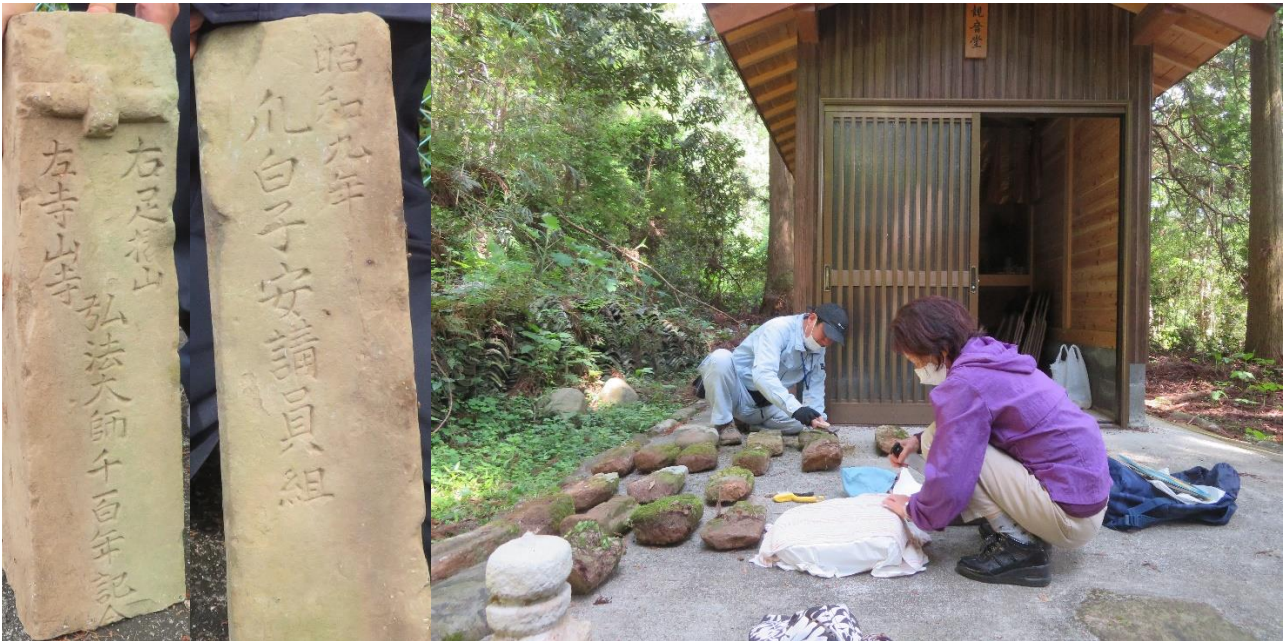
28日の調査では、下ノ加江地区長野に所在する丁石や観音堂境内周辺の中世石仏、爪白地区に所在する昭和初期の道標、大正末に行き倒れとなった方の遍路墓等の追加調査を精力的に実施していただいた。

特に、28日午後の調査では、市内竜串地区の西隣りに位置する爪白地区の集落北西部の山道上り口に大正2年1月頃に行き倒れた姓名不詳の方の遍路墓を新たに発見することができた。今回、爪白地区での調査行った際に地域の方からの聞き取りを通じてこれを発見できた。その地域の方は、祖父が大正2年1月の行き倒れの遍路さんを埋葬して供養し、墓碑を建立したことを代々伝え聞いていた。

爪白から下川口に行くには、当時は爪白地区から遠奈路を経て下川口地区に抜けた。今日のように海岸線が未整備であり、爪白地区の北西部から山道で越えるしかなかった。ここは月山廻りの遍路道であった。野辺で亡くなった遍路さんを手厚く供養し、寄り添う。そんな遍路文化の奥深さを今更ながら感じたことであった。爪白地区には、これ以外にも集会所(避難所)の駐車場の植垣の蘇鉄近くに昭和9年に建立された道標も確認することができた。遍路関係石造物について様々な発見があり、実り多き追加調査であった。



↑大正2年1月、地元の方によって建立された姓氏不詳の遍路墓(撮影:田村公利)。



↑ 爪白地区の昭和9年の道標 ↑ 下ノ加江地区の長野観音堂にて石仏の分類調査を実施。



↑ あしずり遍路道の長野道は、下ノ加江川の西山塊、その山麓の少し高い所に南北の往還が残る。やはり水害を意識してのことだろう。長野道上の土に埋もれた丁石[左写真]。長野観音堂に所在していた一石五輪(一般的には戦国時代頃の供養塔)[右写真]。

【編集後記】沖縄ジョン万次郎会から招聘され、沖縄県豊見城市で中浜万次郎についての講演をさせていただくことになりました。6月4日に講演があり、6月3日から5日まで2泊3日で沖縄に出張してきます。万次郎の少年時代にスポットを当て、故郷中浜のこと、土佐清水市のことをおおいにPRさせていただこうと考えております。(田村)